

インターバンクの声（2015 年 5 月 14 日）

昨晚の海外市場は、久しぶりに絵に書いたように解りやすい相場展開となった。アジア時間では、ずっと方向感のない値動きが続いていたが、ニューヨーク市場朝方に発表された4月の米小売売上高が予想を下回る前月比で横ばいの結果となり、素直にドル売りが加速されたのだ。この小売売上高の結果を受けて、1～3月期の米景気減速の理由が悪天候や港湾ストの影響だけではないとの見方に傾いたようで、今後の米経済指標の行方が一つ一つ気になる様相になってきた。ニューヨーク株式相場は、大幅な下げには至らなかったが、こちらも景気回復ペースの鈍化への警戒感がさらに広がれば、積極的な買いを手控える可能性もあるだろう。債券市場でも、ドイツ国債を中心に欧州債市場での債券発行が需要を上回るとの懸念や、米国長期債の入札が不調となりそうだとの見通しもあり、総じて債券価格が下落している。一部報道では、この2～3週間で数千億ドル規模の資産が消えたことを伝えており、当然レバレッジを掛けたりファイナンスによる投資が多く含まれているはずで、利益が出ている投資対象を売却してその穴埋めに当てることも見込まれ、矛先が為替に向かうことも考えられるだろう。どうもドルの先高観も怪しくなってきたようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。